

令和5年度 英語英文学科 専門科目 シラバス

科目名	アカデミック・イングリッシュⅢ Academic English Ⅲ	単位数	1
	必選区分	選択	
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	アカデミック・イングリッシュとしての論文の書き方を学修する。学術論文には書き方に一定の形式があり、その形式についての知識は論文を読む場合にも書く場合にも必要不可欠である。本授業は、英語論文を作成するにあたり、最低限必要な基本知識を学ぶ。書式、論文の構成、文献資料の扱い方、引用の仕方、出典の示し方に加え、論文にふさわしい英語表現を理解し、基本事項を満たしたエッセイを書けるようになることを目標とする。		
授業概要	論文とは、ある問題について調査し、検討を重ね、導き出した結論について文章化し、自分の主張を論理的かつ客観的に伝えるものであるが、その書き方には一定の決まりがある。英語論文の決まり事は「書く」場合のみならず、「読む」場合にも役立つ知識である。本授業では論文の書式、構成、文献資料の扱い方、引用の仕方、出典の示し方などの基本事項を多くの例題をとおして学修する。また、論文としてふさわしい英語表現についても学修し、最後に基本事項を満たした短いエッセイを書く。  【SDGs：3, 4, 7】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② アカデミック・ライティングの文化</li> <li>③ リサーチを始めるにあたって</li> <li>④ リサーチ・ペーパーの構成</li> <li>⑤ 英語で書くために（1）</li> <li>⑥ 英語で書くために（2）</li> <li>⑦ 原稿を書く（パラグラフ・ライティングとは）</li> <li>⑧ 原稿を書く（文章サンプル）</li> <li>⑨ 論文の体裁（タイトル、書式）</li> <li>⑩ 引用方法</li> <li>⑪ パラフレーズとサマリー</li> <li>⑫ 引用文献の示し方</li> <li>⑬ リサーチ・ペーパーの作成（1）</li> <li>⑭ リサーチ・ペーパーの作成（2）</li> <li>⑮ 完成に向けて</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	【予習】 指定されたテキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】 重要事項をまとめる。リサーチ・ペーパーのための情報を検索、収集する。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題：30%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『英語アカデミック・ライティングの基礎』／編著：一橋大学英語科／出版：研究社		
参考書	『英語論文の書き方 入門』／著：迫桂、徳永聡子／出版：慶応義塾大学出版会		

科目名	イギリス文学史 History of British Literature	単位数	2
	必選区分	選択	
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	古英語時代～現代にいたるイギリス文学の歴史を概観することによって、イギリス文学を研究する上で最低限知っておくべき知識を得ることを目的とします。現代も広く読まれている作家とその作品についての知識を得ることにより、英語圏（特にイギリス）の人々と共通の文化的な知識を身につけ、コミュニケーションを取る際に間接的に役立てられるようにします。		
授業概要	上の到達目標を達成すべく、この授業では古英語の時代から現代に至るまでのイギリス文学の歴史を概観します。授業では、各時代の時代背景や代表的な作家の作品とその特徴などについての講義を行います。時間の許す限り、実際に文学作品の抜粋を読みながら具体的な形で知識を身につけていきます。また、授業外の課題として、3冊以上の文学作品を読み、その概要などをBook Reportとしてまとめて提出することを課します。  【SDGs：17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス・「文学（史）」とは何か</li> <li>② 古英語～中英語時代のイギリス文学</li> <li>③ 16世紀のイギリス文学（詩・散文）</li> <li>④ 16世紀～17世紀初頭のイギリス文学（演劇）</li> <li>⑤ 17世紀初頭のイギリス文学（演劇、詩）</li> <li>⑥ 17世紀半ば～18世紀初頭のイギリス文学（詩）</li> <li>⑦ 18世紀半ば～19世紀初頭のイギリス文学（詩・小説）</li> <li>⑧ 18世紀後半～19世紀初頭のイギリス文学（ロマン主義）</li> <li>⑨ 19世紀前半のイギリス文学（ロマン主義②）</li> <li>⑩ 19世紀半ば～19世紀後半のイギリス文学（詩）</li> <li>⑪ 19世紀半ば～19世紀後半のイギリス文学（小説）</li> <li>⑫ 19世紀末～20世紀初頭のイギリス文学（小説）</li> <li>⑬ 20世紀前半のイギリス文学（小説）</li> <li>⑭ 20世紀半ば～現代のイギリス文学</li> <li>⑮ まとめ</li> <li>⑯</li> </ol>		
予復習等	【予習】 授業で扱う章（教科書）に目を通してから授業に臨むこと 【復習】 授業で触れた時代・作家について、文学史の本などを読むこと		
評価方法	授業姿勢（20%）、課題（20%）、Book Report（60%）		
履修条件	なし		
教科書	『An Outline of English Literature』／著：相島倫嘉／出版：南雲堂		
参考書	初回の授業で提示する。		

科目名	イギリス文化論 British Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	イギリス文化の様々な側面を学び、イギリスを含む英語圏の文化を研究する上で必要な最低限の知識を得ることを目的とします。異文化理解を深めることを通じて、異文化を排除しようとするのではなく、異文化を積極的に、肯定的に受け入れる姿勢を身につけます。また、イギリスを含む英語圏の人々の我々とは異なる価値観や考え方を学び、国際的な視野を持った人間になることを目標とします。		
授業概要	イギリスを中心とした英語圏の社会、文化を概観します。毎回の授業では、キーとなるトピックを一つ取り上げ、該当する箇所の講義を行います。扱うトピックは、「政治・宗教・教育」など以下の授業計画に記載されているトピックです。予習を前提として授業を進めていきますので、指定された箇所をあらかじめ読んでおくことが求められます。また、各週で話題になっている英語圏の国々に関するニュースなどにも触れ、現在のイギリスを中心とした英語圏社会をめぐる状況を理解していきます。  【SDGs：17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス／イギリスについて</li> <li>② 王室について</li> <li>③ 政治について</li> <li>④ 宗教について</li> <li>⑤ 初等・中等教育について</li> <li>⑥ 高等教育について</li> <li>⑦ ジャーナリズムについて</li> <li>⑧ 大英博物館について</li> <li>⑨ シェイクスピアについて</li> <li>⑩ 児童文学について</li> <li>⑪ 音楽について</li> <li>⑫ 食生活について</li> <li>⑬ スポーツについて</li> <li>⑭ 世界におけるイギリスについて</li> <li>⑮ まとめ</li> <li>⑯</li> </ul>		
予復習等	【予習】 授業で扱う章を事前に読み、配布したプリントの穴埋めをしてくること 【復習】 参考文献などを読み、授業の内容に関する理解を深めておくこと		
評価方法	授業姿勢（30%）、期末レポート（70%）		
履修条件	なし		
教科書	『On Britain: An Introduction』／著：Adrian J. Pinnington／出版：開文社		
参考書	初回の授業で提示する。		

科目名	現代アメリカ事情 Contemporary American Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は、アメリカ合衆国が現在抱える諸問題や、近年の議論の的になっている争点に注目し、背景を理解しつつそれらについて議論を深めることにある。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生は、現代アメリカにおける諸問題について関心を持ち、理解を深める。 2：受講生は、現代アメリカと日本を比較し、考察することができる。 3：受講生は、議論を通してコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業概要	アメリカ合衆国は現在、世界最大の経済大国であり軍事大国である。日本との関係も緊密である。日本および世界全体が、アメリカの動向に左右されるほど、その影響力は大きく、アメリカに関する理解を深めることには大きな意味がある。 本講義では、各回において受講者間の議論の時間を設ける。また前半・後半のまとめで受講生は簡潔なレポートを書き、それを相互参照することでそれまでの議論を深める。講義全体を通じて、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めるので、積極的な参加を期待する。  【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション：アメリカの基礎知識</li> <li>② アメリカの政治と経済（1）</li> <li>③ アメリカの政治と経済（2）</li> <li>④ アメリカの外交：ウクライナ戦争と台湾海峡危機</li> <li>⑤ アメリカの外交：日米関係</li> <li>⑥ 前半のまとめ：アメリカの強さの源泉・日本との関係</li> <li>⑦ 分断されるアメリカ（1）：トランプ大統領の誕生を振り返る</li> <li>⑧ 分断されるアメリカ（2）：「リベラル」とはなにか？</li> <li>⑨ BLM運動と黒人差別</li> <li>⑩ COVID-19パンデミックとアジア人差別</li> <li>⑪ トランプの壁とヒスパニック差別</li> <li>⑫ アメリカにおける経済的格差の問題</li> <li>⑬ アメリカにおける中絶論争と同性婚問題</li> <li>⑭ 後半のまとめ：なぜアメリカは分断したか？</li> <li>⑮ 全体のまとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ul>		
予復習等	予習：アメリカに関するニュースに、Voice of Americaなどを参照して、普段から触れておく。 復習：各回の議論のメモをとり、まとめておく。		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、半期レポート（20%）、定期試験または期末レポート（50%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	Voice of America、CNNなどのラジオサイト 『アメリカとは何か』／著：渡辺靖／岩波書店		

科目名	英語圏社会と文化 Anglophone Society and Culture	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、アメリカ合衆国が持つ様々な多様性を理解し、異文化に対する理解と関心を深めることである。具体的な到達目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、アメリカの地理的広大さが多様性の土台となっていることを理解できる。</p> <p>2：受講生は、現在のアメリカの人種的・民族的・性的多様性を把握しつつ、その多様性が認められるまでの道のりがいかなるものであったかを説明することができる。</p> <p>3：受講生は、様々なテーマに関する調査・プレゼンを通じ、アメリカの多様性について関心を深め、発信することができる。</p>		
授業概要	<p>アメリカ合衆国は様々な意味で多様性の国である。アメリカは地理的広大さゆえに多様な自然・風土を持ち、それが産業や人びとの気質にさまざまな違いを生んでいる。アメリカは白人を中心とする国であるが、アフリカから連れてこられた黒人たちはアメリカ史を語る上では欠かせない存在であり、また近年アジア系やヒスパニック系の人びとの数も増えている。またひとくちに「白人」といっても、そこにはさまざまなエスニックがいる。女性や性的マイノリティもまた歴史的な抑圧に抵抗し、権利獲得が進んでいる。受講生には、こうしたさまざまな多様性が、現代アメリカの社会や文化にどのような好影響を与えているか、あるいはどのような問題をはらんでいるかを考察してもらいたい。</p> <p>【SDGs：1, 2, 4, 5, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① インTRODクダクシヨン：アメリカとはどんな国か</li> <li>② プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査1</li> <li>③ プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査2</li> <li>④ アメリカの地理（1）</li> <li>⑤ アメリカの地理（2）</li> <li>⑥ プレゼンⅡ：アメリカの各地域の歴史、違いなどに関する調査</li> <li>⑦ アメリカ黒人の歴史（1）</li> <li>⑧ アメリカ黒人の歴史（1）</li> <li>⑨ プレゼンⅢ：奴隷制度、黒人差別、黒人文化に関する調査</li> <li>⑩ アメリカにおける移民（1）</li> <li>⑪ アメリカにおける移民（2）</li> <li>⑫ プレゼンⅣ：白人移民、日系、アジア系、ヒスパニック系移民に関する調査</li> <li>⑬ アメリカにおける女性運動と性的マイノリティ</li> <li>⑭ プレゼンⅤ：男女平等憲法修正条項、中絶論争、同性婚などに関する調査</li> <li>⑮ まとめ：アメリカの多様性と、それに対する抵抗</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>予習：配布物がある場合、事前にそれを読んでおくこと。また複数回行われるさまざまな調査について準備をする。</p> <p>復習：各講義で扱ったテーマに関するニュースや文献などに触れ、自身の調査に活かす。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、プレゼン（30%）、定期試験または期末レポート（40%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『よくわかるアメリカの歴史』／著：梅崎透ほか編著／ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』／著：遠藤泰生ほか編著／ミネルヴァ書房		

科目名	英語教育学概論 English Language and Education Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本概論では、第二言語習得研究や英語教育学分野の諸議論を概観し、外国語の習得についての理解を深めるとともに、自らの英語学習へ応用できる力を養うことを目的とする。到達目標は以下である。1) 英語教育に関する現代的な諸議論を理解し、自ら論理的・批判的に考えることができる、2) 自分の意見を英語で表明し、議論する力をつける、3) 日本人としてどのように英語に向き合うべきなのかを考察し、主体的に英語学習に向き合うことができる。</p>		
授業概要	<p>本概論では、第二言語習得研究や英語教育学分野の諸議論を概観し、外国語の習得についての理解を深めるとともに、一般的な言語習得に関する諸言説を批判的に考察する。授業では、英語教育に関連したテーマでの英語ディベートや、受講生による模擬授業等を行うなど、実践的に展開する。ディベートのテーマは、最近の英語教育改革に基づき、小学校英語教育の拡大についてと、大学入試民間4技能試験についてとする。また、同テーマでの英文エッセイ・ライティングを課題として課す。</p> <p>【SDGs：4, 9, 10, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス・日本人と英語</li> <li>② 母語の影響と言語習得</li> <li>③ 年齢と言語習得</li> <li>④ 動機づけと言語習得</li> <li>⑤ 学習者要因と言語習得</li> <li>⑥ ディベート1：小学校英語教育について</li> <li>⑦ パイリಂಗル教育について</li> <li>⑧ 日本の学校英語教育</li> <li>⑨ グローバル化と世界の英語政策</li> <li>⑩ ディベート2：大学入試英語4技能試験について</li> <li>⑪ さまざまな教授法 1</li> <li>⑫ さまざまな教授法 2</li> <li>⑬ 模擬授業準備</li> <li>⑭ 受講生による模擬授業 1</li> <li>⑮ 受講生による模擬授業 2</li> <li>⑯ 期末試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】ディベートのテーマについて、新聞・本などで調査する。模擬授業の準備をする。</p> <p>【復習】ディベートのテーマについて、レポートを仕上げる。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度 30%、英語ディベート30%、模擬授業15%、期末試験25%		
履修条件	なし		
教科書	資料を配布する		
参考書	『学校英語教育は何のため？』 江利川春雄ほか、ひつじ書房		

科目名	英語コミュニケーション論 I Communication Studies I	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。本授業では英語の音、単語について、その仕組みを学修し、英語という言語の特徴を理解することを目的とする。英語の言語学的な知識を身につけることで、英語に対する理解を深め、英語運用能力の向上につなげる。		
授業概要	<p>本授業では、英語の音、単語について、それぞれ音韻論、音声学、形態論という観点から、英語の言語学的な特徴を学修する。授業で紹介される多くの例と分析から、言語が理路整然とした体系をもち、規則に従って特定の構造を形成していることを理解し、言語学的知識が英語運用能力の向上に直接結びつくことを意識しながら学ぶ。英語は日本語とは多くの面で対立的な言語であるため、英語をより深く理解するためには、母国語である日本語との対照が役立つ。授業では英語の特徴を際立たせ、より深い理解へつなげるため、日本語と比較対照することがある。受講者は自身の母国語の直感を活かし、言語分析の問題解決プロセスに積極的に参加することが求められる。</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 日英語の音(1)</li> <li>③ 日英語の音(2)</li> <li>④ 音節と音節構造(1)</li> <li>⑤ 音節と音節構造(2)</li> <li>⑥ アクセント・リズム・イントネーション(1)</li> <li>⑦ アクセント・リズム・イントネーション(2)</li> <li>⑧ 環境で変わる音(1)</li> <li>⑨ 環境で変わる音(2)</li> <li>⑩ 同化・脱落</li> <li>⑪ 語の構造</li> <li>⑫ 日英語の接辞</li> <li>⑬ 複合語と派生語(1)</li> <li>⑭ 複合語と派生語(2)</li> <li>⑮ まとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】テキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】重要事項をまとめる。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%		
履修条件	なし		
教科書	『日英対照 英語学の基礎』／編著：三原健一、高見健一／出版：くろしお出版		
参考書	授業で指示する。		

科目名	英語コミュニケーション論 II Communication Studies II	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。本授業では文と語の意味、言語運用に関わる分野について、英語という言語の特徴を理解することを目的とする。英語の言語学的な知識を身につけることで、英語に対する理解を深め、英語運用能力の向上につなげることを目標とする。		
授業概要	<p>本授業では、文と語の意味、言語運用に関わる分野を学修し、英語の言語学的な特徴を理解する。また、高校までの英文法では詳しく扱わない構文や言語現象を観察し、ことばの本質的な意味を考える。英文法を単なる文法用語や形式の暗記として捉えるのではなく、その本質的な機能を深く考察することが求められる。深い言語学的知識が英語の運用能力の向上に直接結びつくことを意識しながら学ぶ。</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 日英語の文構造(1)</li> <li>③ 日英語の文構造(2)</li> <li>④ 情報構造(1)</li> <li>⑤ 情報構造(2)</li> <li>⑥ 情報構造(1)</li> <li>⑦ 日英語の主題について</li> <li>⑧ 視点(1)</li> <li>⑨ 視点(2)</li> <li>⑩ 語の意味</li> <li>⑪ 可算・不可算名詞について</li> <li>⑫ ことばによるコミュニケーション行為(1)</li> <li>⑬ ことばによるコミュニケーション行為(2)</li> <li>⑭ ポライトネス</li> <li>⑮ まとめ</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】テキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】重要事項をまとめる。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%		
履修条件	なし		
教科書	『日英対照 英語学の基礎』／編著：三原健一、高見健一／出版：くろしお出版		
参考書	授業で指示する。		

科目名	英語コミュニケーション研究Ⅰ Seminar in Communication StudiesⅠ	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって、「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。「英語コミュニケーション」では、英語という言語について言語学的見地から深く考え、観察力、洞察力、論理的思考力を養うことを目的とする。①代表的な英語構文について先行研究を読み、論理的に説明できること、②言語学的な知見が英語コミュニケーションに有益であることを理解すること、③研究テーマを設定することを到達目標とする。		
授業概要	英語学で扱われる代表的な英語構文について先行研究を読み、説明できるようにする。特に、高校までの学校文法では十分説明されていない文法現象や構文について、英語や日本語で書かれた解説や論文を読み、理解したことを論理的に説明する。論文の読解から言語学的な分析方法を理解し、観察力、洞察力、論理的思考力を養う。英語学で得た知見が英語コミュニケーションに役立つことを理解し、自身の英語コミュニケーション能力に有益となる研究テーマを主体的に設定する。  【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② 文献の読解(1) ③ 文献の読解(2) ④ 文献の読解(3) ⑤ 文献の読解(4) ⑥ 文献の読解(5) ⑦ 文献の読解(6) ⑧ 文献の読解(7) ⑨ 文献の読解(8) ⑩ 文献の読解(9) ⑪ 文献の読解(10) ⑫ 文献の読解(11) ⑬ 文献の読解(12) ⑭ 卒論準備(1) ⑮ 卒論準備(2) ⑯ 卒論準備(3)		
予復習等	【予習】指定された課題を読み込み、疑問点をまとめる。課題発表の準備をする。 【復習】重要事項をまとめる。研究テーマを考える。		
評価方法	出席状況・授業態度50%、発表：50%		
履修条件	「英語コミュニケーション論Ⅰ」を受講することが望ましい。		
教科書	なし。資料配布。		
参考書	授業で指示する。		

科目名	英語コミュニケーション研究Ⅱ Seminar in Communication StudiesⅡ	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「英語コミュニケーション研究Ⅰ」では、英語についての言語学的知見が英語コミュニケーションにとって有益であることを学んだ。「英語コミュニケーション研究Ⅱ」は、主体的に選んだ研究テーマについて深く考え、観察力、洞察力、論理的思考力を身につけることを目的とする。①各自が選んだテーマについて文献調査を行い、先行研究について発表できること、②得られた言語学的知見が英語コミュニケーションにどのように反映できるか分析し、提案すること、③卒業論文として仕上げることを到達目標とする。		
授業概要	各自が英語コミュニケーション能力に有益となるよう選んだ研究テーマについて文献を調査し、先行研究を分かりやすくまとめて発表する。受講者は積極的に質問し、活発な議論を展開することが求められる。発表と議論をとおして、研究テーマへの理解を深める。次に、得られた言語学的知見が英語コミュニケーションにどのように反映できるか分析し、提案を考える。論文作成指導を受け、論文を仕上げ、卒論発表を行う。  【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② 文献研究(1) ③ 文献研究(2) ④ 文献研究(3) ⑤ 文献研究(4) ⑥ 文献研究(5) ⑦ 文献研究(6) ⑧ 文献研究(7) ⑨ 文献研究(8) ⑩ 論文作成指導(1) ⑪ 論文作成指導(2) ⑫ 論文作成指導(3) ⑬ 論文作成指導(4) ⑭ 論文作成指導(5) ⑮ 論文の完成 ⑯ 論文発表会		
予復習等	【予習】各自の研究テーマの文献を読み込み、発表の準備をする。 【復習】研究テーマへの理解を深め、卒業論文の執筆を進める。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、発表：30%、卒業論文：50%		
履修条件	「英語コミュニケーション論Ⅱ」を受講することが望ましい。		
教科書	なし。資料配布。		
参考書	授業で指示する。		

科目名	アメリカ文学研究Ⅰ Seminar in American Literature I	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この演習では、最終的に卒業論文を完成させるためのアカデミック・スキルを身につけることを目指す。アメリカ文学、歴史、文化に関する文献を読み、アメリカに関する基礎知識だけでなく、異文化に対する関心と理解力および共感力を深めることを目標とする。前期の最後には卒業論文のテーマを設定し、必要な文献調査を終えることが具体的な到達目標である。		
授業概要	この演習では、最終的に卒業論文を完成させるためのアカデミック・スキルを身につけることを目指す。アメリカ文学、歴史、文化に関する文献を読み、アメリカに関する基礎知識だけでなく、異文化に対する関心と理解力および共感力を深めることを目標とする。前半では、参考文献に挙げた文献を用いて、アメリカの歴史や文化に関する重要トピックについて学ぶ。後半ではやや専門的な研究案内や論文の講読・発表を通じて、重要な論点の整理、参考文献の収集などを行う。前期の最後には卒業論文のテーマを設定し、必要な文献調査を終え、夏季休業中のレポート作成につなげていく。  【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】		
授業計画	① インTRODクシヨン：現時点での問題関心の発表 ② アメリカ研究のトピックに触れる（1） ③ アメリカ研究のトピックに触れる（2） ④ アメリカ研究のトピックに触れる（3） ⑤ アメリカ研究のトピックに触れる（4） ⑥ アメリカ研究のトピックに触れる（5） ⑦ 中間報告 ⑧ アメリカ研究の方法を学ぶ（1） ⑨ アメリカ研究の方法を学ぶ（2） ⑩ アメリカ研究の方法を学ぶ（3） ⑪ 先行研究の整理と発表（1） ⑫ 先行研究の整理と発表（2） ⑬ 先行研究の整理と発表（3） ⑭ 先行研究の整理と発表（4） ⑮ 研究計画の発表 ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：事前に配布された資料に目を通す。発表の準備を行う。 復習：質疑応答などで提示されたコメントなどを整理し、以後の自身の研究に活かす。		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、プレゼンや課題（60%）、研究計画（10%）		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	『よくわかるアメリカの歴史』／著：梅崎透ほか編著／ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』／著：遠藤泰生ほか編著／ミネルヴァ書房		

科目名	アメリカ文学研究Ⅱ Seminar in American Literature II	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	アメリカ文学、歴史および文化に関する研究を進めることにより、異文化に対する関心と理解力を深めることを目指す。また論文作成を通じて、課題設定能力、論理的思考力、課題解決能力を向上させることを目的とする。本演習は受講生による研究発表によって進められるが、それにより受講生は専門外の人にもわかりやすく伝える能力、質疑応答を通じてコミュニケーション能力を身につけることができる。		
授業概要	前期に設定した研究テーマおよび基礎研究に基づき、最終的な卒業論文の完成を目指して研究を進める。授業は主に受講生の発表によって進められるが、発表担当者は発表内容について可能な限り授業前に準備・回覧し、担当者以外の受講生はそれを事前に読んでおくこと。前半は受講生がそれぞれ選択した主要な文献についての読解・批評を行い、後半では具体的に論文を執筆していく。質疑応答も活発に行い、それを踏まえて研究内容のブラッシュアップを目指してほしい。なお、受講者の人数等によって授業計画に変更がありうる。  【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス（夏季休暇の成果に関する報告など） ② 研究経過報告：文献研究（1） ③ 研究経過報告：文献研究（2） ④ 研究経過報告：文献研究（3） ⑤ 研究経過報告：文献研究（4） ⑥ 研究経過報告：文献研究（5） ⑦ 研究経過報告：文献研究（6） ⑧ 卒業論文構想報告：全体的な構成・目次 ⑨ 研究経過報告：論文執筆（1） ⑩ 研究経過報告：論文執筆（2） ⑪ 研究経過報告：論文執筆（3） ⑫ 研究経過報告：論文執筆（4） ⑬ 研究経過報告：論文執筆（5） ⑭ 研究経過報告：論文執筆（6） ⑮ 卒業論文提出 ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：発表担当者は事前に資料を配布し、担当者以外はそれを読んでおく 復習：質疑応答や添削などの成果を速やかに論文に反映させる		
評価方法	出席状況・授業態度・発表（40%）、卒業論文（60%）		
履修条件	アメリカ文学研究Ⅰを履修していること		
教科書	なし		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科目名	イギリス文学研究Ⅰ Seminar in British Literature Ⅰ	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	イギリス文学・文化に関する学術論文を書くために必須のリサーチスキルの習得を目指します。イギリス文学を研究をするステップを踏んでいくことを通じて、社会に出て生きていく上で必須である、解決すべき問題点を自分の力で見つけ、解決し、それを分かりやすく論理的に、説得力を持って相手に伝える力の習得を目指していきます。また、英語を用いた地域活動も積極的に行い、岐阜の魅力英語で語るができるようになることも目指します。		
授業概要	イギリス文学研究Ⅰ・Ⅱを通じて、リサーチを実践し、卒業論文を執筆していただきます。イギリス文学研究Ⅰでは論文のテーマ(イギリス文学・文化に関することであれば何でも構いません)を決め、その内容の大まかなアウトラインを決定するとともに、文学研究に必須のリサーチスキルの習得を目指します。毎回の授業では、前半の時間を使い、卒業論文テーマとその内容を決めていくために必須のステップ(テーマの決め方、文献検索の仕方、学術論文の読み方、原稿の書き方など)についての説明を行います。後半の時間を使い、皆さんにリサーチを実践していただきます。発表・発言する機会を多く設けますので、皆さんの積極的な参加を期待しています。 【SDGs：5, 10, 16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス・イントロダクション</li> <li>② 文学研究とは①</li> <li>③ 研究トピック</li> <li>④ トピックについての基礎知識①</li> <li>⑤ トピックについての基礎知識②</li> <li>⑥ 情報収集・文献検索①</li> <li>⑦ 情報収集・文献検索②</li> <li>⑧ 先行研究調査①</li> <li>⑨ 先行研究調査②</li> <li>⑩ 先行研究調査③</li> <li>⑪ 先行研究調査④</li> <li>⑫ 研究テーマ・アウトライン</li> <li>⑬ 研究計画書の作成について</li> <li>⑭ 研究計画発表①</li> <li>⑮ 研究計画発表②</li> <li>⑯</li> </ol>		
予復習等	【予習】 授業で指示された資料にあらかじめ目を通しておくこと 【復習】 授業で指示された課題を行い、次回の授業発言できるように準備すること		
評価方法	授業姿勢（10%）、発表・授業課題など（50%）、研究計画書（40%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	初回の授業で提示する。		

科目名	イギリス文学研究Ⅱ Seminar in British Literature Ⅱ	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	卒業論文の完成を目指してリサーチを進めることによって、論理的思考力、課題解決能力の習得を目指します。イギリス文学・文化に関する学術論文を書くステップを踏んでいくことを通じて、社会に出て生きていく上で必須である、解決すべき問題点とその解決法を自分で見つけ、それを分かりやすく論理的に、説得力を持って相手に伝える力を習得します。		
授業概要	前期に決めた論文のテーマとアウトラインをもとに、論文の執筆を進めていきます。授業は、受講者による研究経過発表が主体となります。また、学術論文を書く上で知っておかなければならないことについての説明も行います。最終的に6,000字程度(英語の場合は2,500語程度)の卒業論文を完成させることを目標とします。また、卒業制作として、英語を活用した地域活動の成果をまとめます。  【SDGs：5, 10, 16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス・夏休みの成果報告</li> <li>② 注の付け方、引用の仕方について</li> <li>③ 研究経過報告 ①</li> <li>④ 研究経過報告 ②</li> <li>⑤ 研究経過報告 ③</li> <li>⑥ 研究経過報告 ④</li> <li>⑦ 序論／結論の書き方</li> <li>⑧ 研究経過報告 ⑤</li> <li>⑨ 研究経過報告 ⑥</li> <li>⑩ 研究経過報告 ⑦</li> <li>⑪ 研究経過報告 ⑧</li> <li>⑫ 卒業論文書式の確認</li> <li>⑬ 論文添削指導①</li> <li>⑭ 論文添削指導②</li> <li>⑮ 卒業論文提出・まとめ</li> <li>⑯</li> </ol>		
予復習等	【予習】 卒業論文の執筆とそれに必要なリサーチを行うこと 【復習】 発表後のコメント、助言を踏まえて論文の執筆を進めること		
評価方法	授業姿勢（10%）、発表・授業課題など（30%）、卒業論文（60%）		
履修条件	「イギリス文学研究Ⅰ」を履修済みであることが必要です。 「イギリス文化論」を合わせて受講することが望ましいです。		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	初回の授業で提示する。		

科目名	英語学研究Ⅰ	単位数	2
	Seminar in English Linguistics I	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的：①言語を科学的分析ができるよう発見・思考・応用力を鍛える。 ②英語学を学ぶことによって、英文法を無味乾燥な規則の寄せ集めとしてではなく、「英語のしくみ」を探り、「暗記の文法」から「理解の文法」への橋渡しを行うことによって、英語力を身につける。③英米小説などの読解を行い、英語の仕組み(文法)を発見し駆使、さらに自ら理論構築できるようになることで英語の力をつける。		
授業概要	本授業の概要：①「英語学」理論の枠組みとして生成文法と認知言語学を学び英語の仕組みを探る。②言語を科学的分析ができるよう発見・思考・応用力を鍛える。③英語学（英語の理論）を学ぶことによって、さらなる英語力が身につくように指導する。④英語による論文や教材の講義を含んだ授業を行う。○本授業では、理論と実際のバランスをとるために、理論の基礎を身につける（文献研究）と体得した理論を応用し、また、自ら理論を構築できる事実を発見する（英米小説など読解）を同時に行う。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② 専門文献の読解 (1) 英米小説などの読解 (1) ③ 専門文献の読解 (1) 英米小説などの読解 (2) ④ 専門文献の読解 (1) 英米小説などの読解 (3) ⑤ 専門文献の読解 (1) 英米小説などの読解 (4) ⑥ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (1) ⑦ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (2) ⑧ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (3) ⑨ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (4) ⑩ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (5) ⑪ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (6) ⑫ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (7) ⑬ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (8) ⑭ 卒論の構想発表 (1) ⑮ 卒論の構想発表 (2) ⑯ 卒論の構想発表 (3)		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。 【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。 ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)50%、定期試験50%		
履修条件	なし。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『問題を通して学ぶ生成文法』阿部潤著. ひつじ書房.		
参考書	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		

科目名	英語学研究Ⅱ	単位数	2
	Seminar in English Linguistics II	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的：①言語を科学的分析ができるよう発見・思考・応用力を鍛える。 ②英語学を学ぶことによって、英文法を無味乾燥な規則の寄せ集めとしてではなく、「英語のしくみ」を探り、「暗記の文法」から「理解の文法」への橋渡しを行うことによって、英語力を身につける。③英米小説などの読解を行い、英語の仕組み(文法)を発見し駆使、さらに自ら理論構築できるようになることで英語の力をつける。		
授業概要	本授業の概要：①「英語学」理論の枠組みとして生成文法と認知言語学を学び英語の仕組みを探る。②言語を科学的分析ができるよう発見・思考・応用力を鍛える。③英語学（英語の理論）を学ぶことによって、さらなる英語力が身につくように指導する。④英語による論文や教材の講義を含んだ授業を行う。○本授業では、理論と実際のバランスをとるために、理論の基礎を身につける（文献研究）と体得した理論を応用し、また、自ら理論を構築できる事実を発見する（英米小説など読解）を同時に行う。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② 専門文献の読解 (1) 英米小説などの読解 (1) ③ 専門文献の読解 (2) 英米小説などの読解 (2) ④ 専門文献の読解 (3) 英米小説などの読解 (3) ⑤ 専門文献の読解 (4) 英米小説などの読解 (4) ⑥ 文献研究 (1) 英米小説などの読解 (1) ⑦ 文献研究 (2) 英米小説などの読解 (2) ⑧ 文献研究 (3) 英米小説などの読解 (3) ⑨ 文献研究 (4) 英米小説などの読解 (4) ⑩ 文献研究 (5) 英米小説などの読解 (5) ⑪ 文献研究 (6) 英米小説などの読解 (6) ⑫ 文献研究 (7) 英米小説などの読解 (7) ⑬ 文献研究 (8) 英米小説などの読解 (8) ⑭ 卒論の構想発表 (1) ⑮ 卒論の構想発表 (2) ⑯ 卒論の構想発表 (3)		
予復習等	【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。練習問題を解いておく。 【復習】授業の中で、質問などで理解したことをまとめ、予習した練習問題を添削する。 ・以上の過程を、各回レポートで提出すること。		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質疑応答など)・レポート・小テスト)40%、期末試験60%		
履修条件	なし。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『問題を通して学ぶ生成文法』阿部潤著. ひつじ書房.		
参考書	授業の中で指定する。		



科目名	英語習得研究Ⅰ	単位数	2
	Seminar in English Language Acquisition I	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語教育学、第二言語習得研究やそれに関連する分野での諸議論を考察することをとおし、社会や自己への理解を深め、論理的・批判的に考える力や、意見の異なる他者と議論する力を身に付けることを目的とする。到達目標は、以下である。1) 必要な情報を収集したり取捨選択できる力をつける、2) 問題を整理・分析する力をつける、3) 問題を理論的・批判的に考え、他者と議論する力をつける、4) 卒業論文の研究テーマを設定する。		
授業概要	ガイダンスでは、卒業論文作成の流れや文献収集方法の説明や推薦図書を紹介を行う。「専門文献の読解」では、各自が候補の文献から選択した英語教育学・第二言語習得研究に関する概説的な文献をレビューし、全体で討議を行う。「文献研究」では、各自が興味のあるテーマに基づき自由に選択した文献のレビューを行い、全員で内容の討議を行う。卒業論文の構想発表では、みずからの力で設定した卒業論文の研究テーマを発表する。  【SDGs: 4, 5, 9, 10, 16】		
授業計画	① ガイダンス ② 専門文献の読解 1 ③ 専門文献の読解 2 ④ 専門文献の読解 3 ⑤ 専門文献の読解 4 ⑥ 専門文献の読解 5 ⑦ 文献研究 1 ⑧ 文献研究 2 ⑨ 文献研究 3 ⑩ 文献研究 4 ⑪ 文献研究 5 ⑫ 文献研究 6 ⑬ 文献研究 7 ⑭ 卒業論文の構想発表 1 ⑮ 卒業論文の構想発表 2 ⑯ 卒業論文の構想発表 3		
予復習等	・「専門文献の読解」、「文献研究」、「卒業論文の構想発表」で各1回発表を行う。 ・卒業論文のテーマを決めるために、各自で文献研究を行う。		
評価方法	出席状況・授業態度 50%、発表等 50%		
履修条件	「英語教育学概論」を合わせて履修することが望ましい。後期に「英語習得研究Ⅱ」を履修すること。		
教科書	適宜資料を配布する		
参考書	ガイダンス時に推薦書のリストを提示する		

科目名	英語習得研究Ⅱ	単位数	2
	Seminar in English Language Acquisition II	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	小島 ますみ	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語教育学、第二言語習得研究やそれに関連する分野での諸議論を考察することをとおし、社会や自己への理解を深め、論理的・批判的に考える力や、意見の異なる他者と議論する力を身に付けることを目的とする。到達目標は、以下である。1) 必要な情報を収集したり取捨選択できる力をつける、2) 問題を整理・分析する力をつける、3) 問題を理論的・批判的に考え、他者と議論する力をつける、4) 前期、後期をとおして取り組んできたテーマをもとに、卒業論文を完成させる。		
授業概要	英語習得研究Ⅱ初回では、まず卒論の書き方についてガイダンスを行う。また受講生は、前期終了時に設定した各自のテーマによる研究構想をもとに、卒業論文の中間報告を行う。その後、各自が選んだ研究テーマと関連する文献をレビューし、参加者全員で内容や方法論について討議を行う。このような文献レビューや討議をとおし、卒業論文の書き方を学んでいく。平行して、卒業論文のための文献調査、データ収集・分析を行い、卒業論文の執筆にあたる。第12週目以降では、各自の論文内容を検討し、必要な修正を施し、論文を完成させる。最終回では、卒論発表会を行う。  【SDGs: 4, 5, 9, 10, 16】		
授業計画	① ガイダンス（論文の書き方） ② 文献研究 1 ③ 文献研究 2 ④ 文献研究 3 ⑤ 文献研究 4 ⑥ 文献研究 5 ⑦ 文献研究 6 ⑧ 文献研究 7 ⑨ 文献研究 8 ⑩ 文献研究 9 ⑪ 論文作成指導 1 ⑫ 論文作成指導 2 ⑬ 論文作成指導 3 ⑭ 論文作成指導 4 ⑮ 総括・卒業論文集の完成 ⑯ 卒業論文発表会		
予復習等	・「文献研究」で各2回、「論文作成指導」で1回の発表を行う。 ・卒業論文のテーマを決めるために、各自で文献研究を行う。		
評価方法	出席状況・授業態度 30%、発表等 30%、卒業論文 40%		
履修条件	前期に「英語習得研究Ⅰ」を履修すること		
教科書	適宜資料を配布する		
参考書	ガイダンス時に推薦書のリストを提示する		

科目名	アメリカ社会研究 I	単位数	2
	Seminar in American Society and Politics I	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科 (2年前期)	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	One goal of this course is to give students some insights into American society today by studying various current issues and discussing how these issues affect the everyday life of Americans. Readings and discussions will focus on the historical background behind important issues, as well as how politics influences these issues. Each year, topics vary, depending on current events and the interests of students. Another goal of the course is to improve skills for collecting and using information in research essays. As all of the readings, writing, and discussions will be done only in English, students who take this seminar need to have an intermediate to high level of reading and writing skills.		
授業概要	The main theme of this course is about issues in American society today. In order to learn about these issues, students will read recent online articles about these issues that affect Americans. In order to gain a broader understanding about the current issues, students will also study related historical, cultural, and political topics. In addition to learning about American society, students will also practice research skills that are necessary for completing the graduation research report. Students will also be asked to present their original research during informal class discussions and short presentations.  【SDGs:4,17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Course introduction</li> <li>② Issues in American society: Topic I (Part 1)</li> <li>③ Issues in American society: Topic I (Part 2)</li> <li>④ Student presentations</li> <li>⑤ Writing workshop: Using outside sources (Part 1)</li> <li>⑥ Issues in American society: Topic II (Part 1)</li> <li>⑦ Issues in American society: Topic II (Part 2)</li> <li>⑧ Student presentations</li> <li>⑨ Student presentations</li> <li>⑩ Writing workshop: Using outside sources (Part 2)</li> <li>⑪ Issues in American society: Topic III (Part 1)</li> <li>⑫ Issues in American society: Topic III (Part 2)</li> <li>⑬ Writing workshop: Essay development</li> <li>⑭ Writing workshop: Citing information</li> <li>⑮ Writing conferences</li> <li>⑯ 定期試験 (First semester report)</li> </ul>		
予復習等	【予習】 Study the text before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (40%); Written assignments (30%); First-semester report (30%)		
履修条件	1年次に「アカデミック・イングリッシュ I・I I」を受講して、論文を書くのに十分な英作能力を持っていることが望ましい。		
教科書	<i>English Writing Manual</i> . David Barker. BTB Press, Nagoya. 2014.		
参考書			

科目名	アメリカ社会研究 II	単位数	2
	Seminar in American Society and Politics II	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科 (2年後期)	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	Students will continue reading and writing about various current issues concerning U.S. society. One main topic will be used for reading, discussion, and writing. The aim is to read different sources of information about one topic and explore various sides of that topic. Students will begin doing their own research by gathering information about the topic and synthesizing the information. Through examples and practices, students will continue to improve skills for writing longer essays. These longer essays will be developed into their final report for the course. During the final part of the course, students will work independently to complete their final reports in English.		
授業概要	The main theme of this course is about issues in American society today. In order to learn about these issues, students will read recent online articles about these issues that affect Americans. In order to gain a broader understanding about the current issues, students will also study related historical, cultural, and political topics. In addition to learning about American society, students will also practice research skills that are necessary for completing the graduation research report. Students will also be asked to present their original research during informal class discussions and short presentations.  【SDGs:4,17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Teacher-student writing conferences</li> <li>② Issues in American society: Topic IV (Part 1)</li> <li>③ Issues in American society: Topic IV (Part 2)</li> <li>④ Issues in American society: Topic IV (Part 3)</li> <li>⑤ Writing workshop: Report organization</li> <li>⑥ Writing workshop: Topic selection &amp; Thesis development</li> <li>⑦ Student presentations</li> <li>⑧ Essay 1 due / Teacher-student writing conferences</li> <li>⑨ Teacher-student writing conferences</li> <li>⑩ Teacher-student writing conferences</li> <li>⑪ Essay 2 due / Teacher-student writing conferences</li> <li>⑫ Teacher-student writing conferences</li> <li>⑬ Teacher-student writing conferences</li> <li>⑭ Essay 3 due / Teacher-student writing conferences</li> <li>⑮ Teacher-student writing conferences</li> <li>⑯ 定期試験 (Graduation Research Report due)</li> </ul>		
予復習等	【予習】 Study the text before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (10%); Written assignments (20%); Graduation research report (70%)		
履修条件	「アメリカ社会研究I」を受講をすること。		
教科書	<i>English Writing Manual</i> . David Barker. BTB Press, Nagoya. 2014.		
参考書			

科目名	ライティングⅢ English Composition III	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>（1）英作文の基礎となる語彙・文法を、暗記ではなく「理解」し応用できるようにして、雰囲気ではなく「意識」して英語が書けるようになる。（2）日本語的発想とは異なる「英語的発想」を生かすことにより、日本語にひきずられた英語らしからぬ英文という間違いをしないようになる。</p>		
授業概要	<p>英作文の向上のため、英作文の基礎となる語彙・文法を、暗記ではなく「理解」して使えるように指導する。例えば「私は岐阜短の学生です」に対応する英語は、I am a student at [×of] Gifu City Women's College. であると単に暗記するのではなく、「なぜ」そうなるのかを考察してもらい「英語の仕組み」を探ってもらおう。暗記の英語から理解の英語へと橋渡しをすることで、英語の仕組みを駆使しながら、日本語的発想と異なる「英語的発想」で「意識的」に英作文ができるように指導する。</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 時制と相の交差点1</li> <li>③ 時制と相の交差点2</li> <li>④ 可算名詞と不可算名詞</li> <li>⑤ 冠詞</li> <li>⑥ 準動詞の世界</li> <li>⑦ 助動詞</li> <li>⑧ 関係詞</li> <li>⑨ 仮定法</li> <li>⑩ 基本構文を使う</li> <li>⑪ 豊かな構文の地平</li> <li>⑫ あいまいな前置詞の世界</li> <li>⑬ コロケーション</li> <li>⑭ 英語らしさの探求</li> <li>⑮ 「らしさ」を生み出す表現</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。  【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。  ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。</p>		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)50%、定期試験50%		
履修条件	なし。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『Thinking for Writing』/ 著：町田章著 / 出版：音羽書房鶴見書店		
参考書	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		

科目名	ライティングⅣ English Composition IV	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	森藤 庄平	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>（1）英作文の基礎となる語彙・文法を、暗記ではなく「理解」し応用できるようにして、雰囲気ではなく「意識」して英語が書けるようになる。（2）日本語的発想とは異なる「英語的発想」を生かすことにより、日本語にひきずられた英語らしからぬ英文という間違いをしないようになる。</p>		
授業概要	<p>英作文の向上のため、英作文の基礎となる語彙・文法を、暗記ではなく「理解」して使えるように指導する。例えば「私は岐阜短の学生です」に対応する英語は、I am a student at [×of] Gifu City Women's College. であると単に暗記するのではなく、「なぜ」そうなるのかを考察してもらい「英語の仕組み」を探ってもらおう。暗記の英語から理解の英語へと橋渡しをすることで、英語の仕組みを駆使しながら、日本語的発想と異なる「英語的発想」で「意識的」に英作文ができるように指導する。</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② 時制と相の交差点1（発展・応用）</li> <li>③ 時制と相の交差点2（発展・応用）</li> <li>④ 可算名詞と不可算名詞（発展・応用）</li> <li>⑤ 冠詞（発展・応用）</li> <li>⑥ 準動詞の世界（発展・応用）</li> <li>⑦ 助動詞（発展・応用）</li> <li>⑧ 関係詞（発展・応用）</li> <li>⑨ 仮定法（発展・応用）</li> <li>⑩ 基本構文を使う（発展・応用）</li> <li>⑪ 豊かな構文の地平（発展・応用）</li> <li>⑫ あいまいな前置詞の世界（発展・応用）</li> <li>⑬ コロケーション（発展・応用）</li> <li>⑭ 英語らしさの探求（発展・応用）</li> <li>⑮ 「らしさ」を生み出す表現（発展・応用）</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】分からない所を明確にし質問ができるようにする。課題を解いておく。  【復習】質問などで理解したことをまとめ、予習した課題を自己添削する。  ・以上の過程を毎回レポートで提出すること。</p>		
評価方法	授業への参加(授業参加度・発言(質問など)・レポート・小テスト)50%、定期試験50%		
履修条件	なし。真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	『Thinking for Writing』/ 著：町田章著 / 出版：音羽書房鶴見書店		
参考書	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		

科目名	オーラル・イングリッシュⅢ Oral English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業では、各回ごとに設定されたトピックに関する受講生間のディスカッションを中心に進められる。それにより、英語での表現力、議論の構成力、コミュニケーション能力を高めることを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生は、自身の意見を英語で表現できる。 2：受講生は、ディスカッションを通じてコミュニケーション能力を高めることができる。		
授業概要	この授業は、 <i>What Do You Think</i> という教科書を用い、各回ごとに設定されたトピックについて、受講生間のディスカッションを中心に進める。それによって自分の意見を英語で、説得力のある形で表現することを意識し、またお互いの意見交換を通じてトピックに関する理解力やコミュニケーション能力を高めてもらいたい。 教科書とは別に副教材を用い、英語のリスニング能力などを高めることを目的とした練習も行う予定である。  【SDGs：4, 10, 16, 17】		
授業計画	① Introduction, Unit 1: Working at a Convenience Store or a Restaurant? ② Unit 2: Cash vs Credit Card ③ Unit 3: Doing Volunteer Work ④ Unit 4: Stay-at-home Dads ⑤ Unit 5: Do you Want to be a YouTuber? ⑥ Unit 6: I Want a Driverless Car! ⑦ Unit 7: Smartphone or Laptop? ⑧ Unit 8: Online Dating ⑨ Unit9: Being Famous ⑩ Unit 10: Hybrid Classes ⑪ Unit 11: Working 4 Days a Week or 5 Days a Week? ⑫ Unit 12: Married at 35 ⑬ Unit 13: Cosmetic Surgery ⑭ Unit 14: Good Bye SNS! ⑮ Unit 15: Working from Home ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：各Unitに提示されている短いテキストを読んでおく。 復習：各Unitのテーマに関する自身の意見をまとめ、簡単な英文メモを作成する。		
評価方法	授業態度・出席状況（40％）、定期試験または期末レポート（60％）		
履修条件	なし		
教科書	『What Do You Think?』／著：Alan Bossaer／南雲堂		
参考書	なし。適宜副教材を配布することがある。		

科目名	オーラル・イングリッシュⅣ Oral English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は、英語コミュニケーション能力の中で特に「聞く」「話す」技能の運用能力向上を目的とする。様々なジャンルから選ばれたニュース映像を視聴し、①ナチュラルスピードで話される内容を理解し、②その内容を要約して自分の言葉で伝えたり、議論できる英語力を身につけることを到達目標とする。		
授業概要	本授業ではアメリカの学生向けニュース番組CNN10を教材とし、様々なジャンルから選ばれたニュース映像を視聴する。「聞く」技能のトレーニングとしてシャドーイングを行い、ニュースのスピードに慣れる。理解した内容は自分の言葉で要約して発表したり、内容についての意見を述べ議論するなど「話す」技能を身につける。英語ニュースに関心をもち、自発的に興味のある話題を見つけて、内容を発表する。  【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Latest CNN10 ⑥ Unit 4 ⑦ Unit 5 ⑧ Unit 6 ⑨ Latest CNN10 ⑩ presentation ⑪ Unit 8 ⑫ Unit 9 ⑬ Unit 10 ⑭ Unit 11 ⑮ Review ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの該当範囲の問題を解いておく。 【復習】音声ストーリーミング配信を使って、復習する。単語リストを作る。		
評価方法	出席状況・授業態度20％、発表10％、小テスト20％、定期試験50％		
履修条件	なし		
教科書	『CNN10 Student News Vol.9』／著：関戸冬彦／出版：朝日出版社		
参考書	なし		

科目名	リーディングⅢ English Reading Ⅲ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	中・上級レベルの英文読解能力の養成を目指します。少し難易度の高い文章を読むことを通じて、複雑な文の構造を把握し、意味を正確に読み取れるようになることを目的とします。また、レベルの高い英文読解力の養成に必要な語彙の習得を通じて、総合的な英語力の向上も目指していきます。		
授業概要	中・上級レベルの英文読解能力の習得を目的とする授業です。政治や歴史など大きなテーマから、ごく日常的な話題に至るまで、様々な話題を扱った少し難易度の高い文章を読み進めていきます。また、様々な文章を読むことを通じて、これからの時代を生きていくために必要な幅広い視点を養うことも目指していきます。授業では2回につき1つずつLessonを丁寧に読み進めていきます。読む英文の難易度がかなり高いので、解説に時間をかけながら進めていきます。また、授業外の課題として、多読を課します。前期中に100,000wordsを目標に多読図書を読んでいきます。  【SDGs : 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Lesson 1 ① ③ Lesson 1 ② ④ Lesson 2 ① ⑤ Lesson 2 ② ⑥ Lesson 3 ① ⑦ Lesson 3 ② ⑧ Lesson 4 ① ⑨ Lesson 4 ② ⑩ Lesson 5 ① ⑪ Lesson 5 ② ⑫ Lesson 6 ① ⑬ Lesson 6 ② ⑭ Lesson 7 ① ⑮ Lesson 7 ② ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】各回の授業で指定された課題を行ってくること 【復習】(1) 授業で扱ったLessonに出てきた語彙で知らなかったものを確認すること／(2) 授業で扱ったLessonの本文をもう一度、すらすら読めるようになるまで読むこと		
評価方法	授業姿勢（20％）、多読課題（10％）、期末試験（70％）		
履修条件	なし		
教科書	『A World of Ideas: Active Reading for Global Awareness』／著：Jim Knudsen他／出版：南雲堂		
参考書	なし		

科目名	リーディングⅣ English Reading Ⅳ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「リーディングⅢ」に引き続き、中・上級レベル（TOEIC500程度～）の英文読解能力の養成を目指します。少し難易度の高い文章を読むことを通じて、複雑な文の構造を把握し、意味を正確に読み取れるようになることを目的とします。また、レベルの高い英文読解力の養成に必要な語彙の習得を通じて、総合的な英語力の向上も目指していきます。		
授業概要	中・上級レベルの英文読解能力の習得を目的とする授業です。政治や歴史など大きなテーマから、ごく日常的な話題に至るまで、様々な話題を扱った少し難易度の高い文章を読み進めていきます。また、様々な文章を読むことを通じて、これからの時代を生きていくために必要な幅広い視点を養うことも目指していきます。授業では受講者の興味に応じて読むトピックを選択し、2回につき1つずつLessonを読み進めていきます。読む英文の難易度がかなり高いので、解説に時間をかけながら進めていきます。また、授業外の課題として、多読を課します。100,000wordsを目標に多読図書を読んでいきます。  【SDGs : 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Lesson 9 ① ③ Lesson 9 ② ④ Lesson 10 ① ⑤ Lesson 10 ② ⑥ Lesson 11 ① ⑦ Lesson 11 ② ⑧ Lesson 12 ① ⑨ Lesson 12 ② ⑩ Lesson 13 ① ⑪ Lesson 13 ② ⑫ Lesson 14 ① ⑬ Lesson 14 ② ⑭ Lesson 15 ① ⑮ Lesson 15 ② ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各回の授業で指定された課題を行ってくること 【復習】(1) 授業で扱ったLessonに出てきた語彙で知らなかったものを確認すること／(2) 授業で扱ったLessonの本文をもう一度、すらすら読めるようになるまで読むこと		
評価方法	授業姿勢（20％）、多読課題（10％）、期末試験（70％）		
履修条件	なし		
教科書	『A World of Ideas: Active Reading for Global Awareness』／著：Jim Knudsen他／出版：南雲堂		
参考書	なし		

科目名	英会話AIII	単位数	1
	English Conversation AIII	必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The goal of this class is to help students become better at speaking English naturally. Increasing knowledge of vocabulary and grammar as it is used in spoken English is necessary for improving overall English ability, but in order to make use of that knowledge, regular speaking practice is necessary. In this class, students will increase both their knowledge of English and their ability to use it in conversation.		
授業概要	Students will increase their ability to use English through weekly conversation practice in pairs and small groups. Students will continue to review and practice conversation skills that they learned in the first year English communication classes. At all times, the focus of the course will be on speaking, so students are expected to come to class each week ready to communicate in English with their teacher and classmates in English.  【SDGs:4,17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① Course orientation / First year review</li> <li>② Unit 1: What kind of person are you?</li> <li>③ Unit 1: How have you changed?</li> <li>④ Unit 2: Getting around</li> <li>⑤ Unit 2: Indirect questions</li> <li>⑥ Quiz / Unit 4: Unusual experiences</li> <li>⑦ Unit 4: Your best dish</li> <li>⑧ Speaking Test #1</li> <li>⑨ Unit 5: Vacation plans</li> <li>⑩ Unit 5: Travel advice</li> <li>⑪ Unit 6: Household chores</li> <li>⑫ Unit 6: Making requests</li> <li>⑬ Unit 7: Electronic devices</li> <li>⑭ Unit 7: Unplug your life</li> <li>⑮ Quiz / Review</li> <li>⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)</li> </ul>		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	1年次の「English Conversation」を受講することが望ましい。		
教科書	<i>Interchange 2</i> (5E). Jack C. Richards, Jonathan Hull, and Susan Proctor. Cambridge. 2017.		
参考書			

科目名	英会話AIV	単位数	1
	English Conversation AIV	必選区分	必修
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The goal of this class is to help students become better at speaking English naturally. Increasing knowledge of vocabulary and grammar as it is used in spoken English is necessary for improving overall English ability, but in order to make use of that knowledge, regular speaking practice is necessary. In this class, students will increase both their knowledge of English and their ability to use it in conversation.		
授業概要	Students will increase their ability to use English through weekly conversation practice in pairs and small groups. Students will continue to review and practice conversation skills that they learned in the first year English communication classes. At all times, the focus of the course will be on speaking, so students are expected to come to class each week ready to communicate in English with their teacher and classmates in English.  【SDGs:4,17】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>① First semester review</li> <li>② Unit 10: Expressing preferences</li> <li>③ Unit 10: Finding the right job</li> <li>④ Unit 9: Consequences</li> <li>⑤ Unit 11: Famous places</li> <li>⑥ Unit 11: World travel / Review</li> <li>⑦ Quiz / Speaking Test #3</li> <li>⑧ Unit 12: Telling a story</li> <li>⑨ Unit 12: What would you do?</li> <li>⑩ Unit 13: Favorite actors</li> <li>⑪ Unit 13: Favorite movies</li> <li>⑫ Unit 15: Giving advice</li> <li>⑬ Unit 15: What would you have done?</li> <li>⑭ Unit 16: Making excuses</li> <li>⑮ Unit 16: What's Your Reason? / Review</li> <li>⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)</li> </ul>		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	「英会話AIII」を受講をすること。		
教科書	<i>Interchange 2</i> (5E). Jack C. Richards, Jonathan Hull, and Susan Proctor. Cambridge.2017.		
参考書			

科目名	英会話BIII	単位数	1
	English Conversation BIII	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objective of this course is to introduce critical thinking and encourage students to express opinions about real-world topics.		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】</p> <p>In this course students will have the opportunity to listen to authentic recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre- taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work. Real world topics will include: skills needed for a variety of jobs, successful study habits and negotiating for goods.</p> <p>【SDGs：4, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① Orientation. Introduction and ice breaker activities.</li> <li>② Work: Listening 1. Make and confirm predictions.</li> <li>③ Work: listening 2. Compare and contrast ideas.</li> <li>④ Work: Speaking. Answer questions about jobs, interests and skills.</li> <li>⑤ Student Life: Listening 1. Learn to make inferences.</li> <li>⑥ Student Life: Listening 2. Listen to and discuss good and bad study habits.</li> <li>⑦ Student Life: Speaking. Make a class survey and report the results.</li> <li>⑧ Review. Mid term speaking assessment.</li> <li>⑨ Money: Listening 1. Learn about the history of money.</li> <li>⑩ Money: Listening 2. Listen to and discuss the City Barter Network.</li> <li>⑪ Money: Speaking. Discuss freecycling, negotiate to exchange unwanted items.</li> <li>⑫ Etiquette: Listening 1. Introducing the topic of good and bad manners.</li> <li>⑬ Etiquette: Listening 2. Discussing why there is a lack of good manners.</li> <li>⑭ Etiquette: Speaking. Discussing etiquette in different situations.</li> <li>⑮ Review. End of term speaking assessment.</li> <li>⑯ End of term examination.</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 Weekly vocabulary lists.</p> <p>【復習】 Mid term and end of term review speaking assesments.</p>		
評価方法	Mid term speaking assessment, 20%. End of term speaking assessment, 20%. Participation, 10% End of term examination, 50%.		
履修条件			
教科書	North Star 2. Listening and speaking. Pearson. Mills, Frazier (fourth edition).		
参考書			

科目名	英会話BIV	単位数	1
	English Conversation BIV	必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objective of this course is to further develop critical thinking skills and language to express opinions about real-world topics.		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】</p> <p>In this course students will have the opportunity to listen to authentic recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre- taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work. Real world topics will include: increasing obesity levels, examples of everyday heroism and endangered languages.</p> <p>【SDGs：3, 4, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① Orientation. Review of semester one skills such as making inferences.</li> <li>② Food: Listening 1. Healthy and unhealthy eating habits.</li> <li>③ Food: Listening 2. Government policies to reduce obesity.</li> <li>④ Food: Speaking. Debate about healthy eating and government control.</li> <li>⑤ Speaking Assessment 1. Pair presentation on obesity</li> <li>⑥ Heroes: Listening 1. Examples of heroes.</li> <li>⑦ Heroes: Listening 2. Altruism.</li> <li>⑧ Heroes: Speaking. Presentation about someone you admire.</li> <li>⑨ Health: Listening 1. Diabetes. Video games.</li> <li>⑩ Health: Listening 2. Technology in the classroom.</li> <li>⑪ Health: Speaking. Advice about health problems.</li> <li>⑫ Endangered Cultures: Listening 1. Disappearing languages.</li> <li>⑬ Endangered Cultures: Listening 2. Saving languages and cultures.</li> <li>⑭ Endangered Cultures: Speaking. English threatens endangered languages.</li> <li>⑮ End of term review. Speaking assessment 2.</li> <li>⑯ End of term examination.</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 Weekly vocabulary lists.</p> <p>【復習】 Speaking assesment 1 and 2.</p>		
評価方法	Week 5 speaking assessment 1, 20%. End of term speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件			
教科書	North Star 2. Listening and speaking. Pearson. Mills, Frazier (fourth edition).		
参考書			

科目名	ビジネス・イングリッシュ Business English	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	佐々木 真帆美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業の目的は、学生が卒業し就職してから、ビジネスの場でつかいこなすことができる英語力を身につけることである。到達目標は以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスの場で使用されるボキャブラリや会話表現の習得。</li> <li>2. 英語のメール・手紙等ビジネス文書の形式を理解すること。</li> <li>3. ビジネス文化の理解等を通して総合的な英語力の向上と生きた英語を習得すること。</li> </ol>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：一般企業にて貿易業務に従事した経験あり。】 国際化が進む現代社会において、ビジネスの場で英語を使用する機会が多くなってきている。本授業では、就職後英語で業務にあたることが求められた際にスムーズに仕事ができるよう、以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス関連のリスニング、リーディングを通して、ビジネスの場で使用される語彙や英語表現を確認する。</li> <li>2. ビジネス文書等の読解を通して、文書の形式や書き方を習得する。</li> </ol> <p>ほかに、ビジネス用語が頻出するとされるTOEICの練習にも随時取り組む。通常の予習・復習に加え、ビジネス・イングリッシュに関連した課題を3回提出すること。 【SDGs：4, 10】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス</li> <li>② Chapter 1、2</li> <li>③ Chapter 3、4</li> <li>④ Chapter 5、6</li> <li>⑤ TOEIC練習問題（1）</li> <li>⑥ Chapter 7、8</li> <li>⑦ Chapter 9、10</li> <li>⑧ Chapter 11、12</li> <li>⑨ TOEIC練習問題（2）</li> <li>⑩ Chapter 13、14</li> <li>⑪ Chapter 15、16</li> <li>⑫ Chapter 17、18</li> <li>⑬ Chapter 19、20</li> <li>⑭ Chapter 21、22</li> <li>⑮ Chapter 23、24</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を確認し、教科書の問題に解答しておくこと 【復習】 毎回の授業最初に前回の授業内容の小テストを行うので、それに備えて復習をしておくこと</p>		
評価方法	出席状況・受講態度・小テスト20%、課題30%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教科書	『Getting Global!』／著：辻本智子ほか／出版：金星堂		
参考書	なし。		

科目名	インターネット・イングリッシュ Internet English	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>インターネットの利用を通して、メディア・リテラシーの基礎力を養成することを目的とする。到達目標は、以下である。1) インターネットを通じた生のテキストで生きた英語に触れ、聴解や読解できる力を身に付ける、2) 現代的な社会問題について必要な情報を収集し、得られた情報を適切に整理・分析できる、3) 2で整理・分析した情報をもとに、考察したことを英語で効果的に発表することができる。</p>		
授業概要	<p>実用的な英語表現を映像とスクリプトを用いた活動を通じて学習し総合的な英語力を培う。視聴覚教材に関連する文法事項と語彙を丁寧に確認することで英語力の充実を図る。また、内容理解だけでなく、定型表現の使い方を確認し、スクリプトで確認した内容の要約も行う。インターネット上のテキストや動画等を英語で理解する。与えられたテーマ（料理、音楽、映画など）に沿って必要な情報をインターネット上で収集し、まとめたことや考えたことに基づき、ペアや小グループ内でディスカッションやプレゼンテーションを行う。受講者には、能動的な参加が求められる。</p> <p>【1, 3, 4, 5, 7, 9, 10, 12, 13, 16】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① Introduction</li> <li>② Unit 1 Kimuchi in Space</li> <li>③ Unit 2 Is Ginkgyo Biloba Effective?</li> <li>④ Unit 3 Our Best Friends Understand Us!</li> <li>⑤ Unit 4 Gaming Online</li> <li>⑥ Unit 5 Overtaken by China</li> <li>⑦ Unit 6 More Salt with Your Vegetables?</li> <li>⑧ Unit 7 Homes for the Homeless</li> <li>⑨ Unit 8 Care for an Exoskeleton?</li> <li>⑩ Unit 9 Health on the Go</li> <li>⑪ Unit 10 E-Books Rising</li> <li>⑫ Unit 11 Health in the Forest</li> <li>⑬ Unit 12 Gravity- defying Skateboards</li> <li>⑭ Unit 13 Living Your High-tech Dreams</li> <li>⑮ Unit 14 Onward to Jupiter</li> <li>⑯ 定期試験</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 プレゼンテーション課題（Cooking, Music, Movieなど）の準備 【復習】 授業で扱った教材の復習</p>		
評価方法	授業内課題30%、小テスト20%、定期試験50%として総合的に判断する。		
履修条件	なし		
教科書	VOA News Plus ISBN9784791947942		
参考書	なし		



科目名	海外英語演習 Study Abroad Program	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	英語英文学科（2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生は、長年英語を、読む・書く・聞く・話す、という4技能に習熟するために勉強してきている。本授業では、その4技能に対し、実際に英語圏でナマの英語や文化に触れる体験をして刺激を得、今後の自己の生き方と世界観の育成に資することを目的とする。英語圏の大学または語学学校等で行われる一連の授業活動や、名所等の見学、ホームステイに積極的に参加し、コミュニケーション力を向上させ、国際化する地域社会や世界で、自律・協調して生きていくための基本的力を身につけることが到達目標である。</p>		
授業概要	<p>英語圏の大学または語学学校等で長期休暇中10日程度開講予定である。受講者で、所定の基準を満たした者は、本科目2単位を取得することができる。授業では、実用英語を中心に、現地の歴史や文化を学ぶ。見学として、現地の名所・旧跡や行楽地を訪れる。また、ホームステイも体験する。英語の講義を理解することができるようになり、日本や岐阜の文化について紹介するなど、コミュニケーションを取りながら活動するので、受講生には好評を博している。なお、以下の授業計画は、令和元年度の実施例である。本年度実施する場合も、これに準じた計画となる予定である。</p> <p>【SDGs：4】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イン트로ダクション・海外英語演習の目的と意義</li> <li>② 業者を交えてのオリエンテーション・研修の内容・海外旅行の具体的手続き</li> <li>③ 現地の様子・実際の注意など</li> <li>④ カリフォルニア州立大学ロングビーチ校による具体的スケジュール表の配布・説明</li> <li>⑤ 以下、現地校におけるスケジュールに従い諸活動を行う</li> <li>⑥ 英語クラス（1）</li> <li>⑦ 英語クラス（2）</li> <li>⑧ 大学内の日本語クラスに合流・英語クラス（3）</li> <li>⑨ 英語クラス（4）</li> <li>⑩ 現地学生へのインタビュー・英語クラス（5）</li> <li>⑪ 現地の学校を訪問。英語クラス（6）</li> <li>⑫ 英語クラス（7）</li> <li>⑬ 英語クラス（8）</li> <li>⑭ ディズニーランドなど見学</li> <li>⑮ まとめ・試験・フェアウェル</li> <li>⑯ 課題レポート</li> </ol>		
予復習等	<p>【予習】 次回のオリエンテーションや授業で行う範囲を予め学習しておくこと。  【復習】 今回のオリエンテーションや授業で行ったことのノートなどに目を通し、課題を行うこと。</p>		
評価方法	現地校の評価基準に準拠する。		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	現地校の指定教科書。		
参考書	オリエンテーションで指示する。		